

バラ科

クローブ(丁字)に似ている花が特徴

チヨウウジザクラ(丁字桜)

* 4~5月 本州、九州

落葉小高木で、高さは3~7m。葉は互生し、倒卵形で長さ6~10cm。先端は尖り、ふちには2重鋸歯がある。葉の両面に短い軟毛が密生する。花は淡紅色で、前年の枝に1~2個ずつ集まって咲く。垂れ下がって咲く形が香辛料の丁字(クローブ)に似ているところからこの名がついた。



萼(く)は細長い筒状で、外面は赤みを帯びる。花弁は萼より小さく目立たない。

バラ科

日本には一種のみ自生するザイフリボク属の木

ザイフリボク(采振木)

* 4~5月 本州、四国、九州

雑木林の林縁などに生える落葉性の低木~高木。高さ5~10m。樹皮は灰褐色から暗褐色で、成木になると褐色の筋が多くなる。枝は初め暗紫色で、白または灰褐色の軟毛があるが、のちに黒褐色で無毛になる。葉は倒卵形か楕円形で、先端は尖る。花は枝先に白色の5弁花が10個ほど集まって咲く。



花の形が采配を振っているように見えるところから、この名がついた。



一重咲きの花は、ヤエヤマブキと間違われることが多いが、ヤエヤマブキは結実しない。



ヤマブキを題材とした歌は18首あり、そのうち7首が家持の歌である。紹介した歌は「美しい花を手折り、酒壺を携えてやってきた愛しい女性」を詠んだもの。この歌のように、ヤマブキを万葉の美人にたとえた秀歌が多数ある。
ヤマブキは全国各地の山野に

自生する落葉低木で、庭園などにも観賞用として植えられている。高さは1・5〜2mくらいになり、枝はよく伸びて先が垂れる。鮮やかな黄色の5弁花は、黄金色の代名詞「山吹色」になっている。実は緑色の瘦果だが、1〜5個集まってつき、夏に熟して暗褐色になる。

バラ科

美女にたとえて詠まれた鮮やかな黄色い5弁の花
 ＊ 4月 北海道、本州、四国、九州
ヤマブキ(山吹)

万葉名

山吹
やまぶき

歌意

あなたの家のヤマブキが咲く時分には、絶えず訪れましょう、ずっと毎年。

我が背子が やどの山吹 咲きてあらば
 止まず通はむ いや年のはに

おほものやかもち
 大伴家持(巻二十四三〇三)



実は便秘薬、利尿薬に用いられる。



バラ科

香料にもなる高い芳香の花が咲く落葉低木
 ＊ 5～6月 北海道、本州、四国、九州

ノイバラ(野茨)

万葉名

荊うまろ 宇万良うまら

道の^{みち}への 茨^{うまろ}の末^{うれ}に 延^はほ豆^{まめ}の
 からまる君^{きみ}を はかれか行^ゆかむ

丈部鳥はせへのとり (巻二十四三二)

歌意

道のほとりのノイバラの枝に這ってはからみつく豆の蔓のように、私にまわりつくあなたに別れて行くのであろうか。

万葉集でノイバラを歌った作品は、この一首のみ。作者が防人^{もり}として、九州筑紫へ赴くときの歌である。妻や恋人との別れを連想するが、「君」とは身分の高い男性のこと。この場合は一般に、「仕える主人の若君」と解釈されている。
 ノイバラは、原野や川岸に生

える落葉小低木。樹高は約2m。やや蔓状で、茎に鋭い刺^{とげ}がある。葉は楕円形で、小葉からなる羽状複葉。ふちには刺がある。初夏に、白い5弁の花が開く。花は、バラ特有のよい香りがする。晩秋には赤い実が熟し、薬用になる。園芸用のバラの台木として広く利用されている。

バラ科

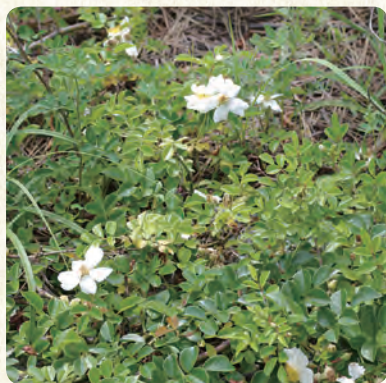
草に隠れるように地面を這いまわる

テリハノイバラ（照葉野茨）

✿ 6～7月

本州、四国、九州、沖縄

川辺や海辺に生える蔓性の落葉低木。枝は無毛でまばらに刺があり、地面を這い、長さ約3mになる。枝先に径約3cmの白い5弁花をつける。葉は7～9の小葉からなり、厚く、表面は深緑色で光沢があり、裏面は黄緑色。ふちには広卵形で急尖頭の粗い歯牙がある。果実は偽果。卵球形で赤く熟す。



花は芳香があり、枝先に集まって咲く。葉の表面に光沢があることからこの名がついた。

バラ科

観賞用の庭木としても多用されるバラの花

ナニワイバラ（難波薔薇）

✿ 5～6月

本州、四国、九州、沖縄（栽培品）

中国原産の蔓性常緑低木。枝は強く、よく伸びて細かい刺が多くある。小葉は3出複葉で、長さ2～4cm。卵状楕円形で、先が尖る。無毛で硬く、表面は深緑色で光沢がある。枝先に、芳香のある白い5弁花をつける。江戸時代に大阪の植木屋が庭木として普及させたことからこの名がついた。



果実は偽果。長さ3.5～4cmの洋ナシ型で小さな刺が密生する。熟すと暗橙赤色に熟す。